

研究部だより

秋田県立栗田支援学校
研究部 第2号
令和7年9月5日発行

8月21日(木)第2回研究全体会を行いました。アンケートでは、各学部や寄宿舎の研究について理解できたという意見が多かったです。質問が2つ寄せられましたので、各担当に答えてもらいました。

質問

小学部では、昨年までの研究の成果を生かして授業づくりを継続するということによいのか。

昨年度は、児童の興味・関心と教師が育てたいと考える力をすり合わせて学習内容を考えることで、児童の主体的な姿を引き出すことができました。今年度はこの成果を土台に、「児童にとって分かりやすいゴール」「学びの価値付け」などのキーワードを大切にして児童がより達成感を味わうことができる工夫をした授業づくりを行っています。

質問

中学部では、自分の意見を言葉で伝えるのが難しい生徒は個別面談をどうやって行うのか。
面談は対象生徒だけなのか。

面談は基本的にすべての生徒を対象に行っています。自分の意見を言葉で伝えるのが難しい生徒には、写真を見せて頑張ったことを一緒に振り返ったり、認めたりする時間として面談時間を活用しています。

感想

- ◎中・高等部では、個別面談やワンステップシート、目標達成シートなど、生徒との対話を大切にしながら実態把握を進めている点がよいと感じた。
- ◎総合サービス科の研究では、生徒の現状、課題、研究方法、ゴールが分かりやすく、道徳の授業を取り上げていることが興味深かった。
- ◎寄宿舎では、生徒の希望から、自立生活自習を通じた体験的な活動に全員が取り組めるところが魅力的だと感じた。

道徳研修会について

8月22日(金)に高等部総合サービス科で道徳研修会を行いました。講師として秋田県総合教育センターから伊藤文子主任指導主事をお招きし、道徳科の指導と評価についてお話をいただきました。特に授業づくりにおいては、ねらいとする「道徳的価値」を明確にすることや、基本発問や補助発問を考えること、そして教師と生徒が丁寧なやりとりを重ねることなど、道徳科におけるポイントを体験的に教えていただきました。また、評価については記述式を基本とし、学習活動の中で生徒が多面的・多角的に物事を捉えようとしているか、道徳的価値を理解し、自身の考えを深めようとしているかなどの視点を重視するように教えていただきました。職員からは、「授業づくりの流れが分かり勉強になった」「演習で行った内容を授業で実践してみたい」と感想がありました。

本研修を生かし、9月に授業提示を行い、伊藤主任指導主事に指導助言をしていただく予定です。

